

人間関係論

科目ナンバ 4A103
総合基礎 選択 2単位

津村 健太

1. 授業の概要(ねらい)

この授業は、通信教育課程のDP1(人文・社会科学をはじめとする基礎的な教養)に関連する科目です。

本科目は、人間関係において重要な役割を果たすコミュニケーションの構造や特徴を理解することで、自らを取りまく人間関係について、客観的に考察する視点を獲得できることをねらいとしています。その際、特に日本語によるコミュニケーションに焦点をあてます。

まずコミュニケーションの全体像を日本語におけるコミュニケーション、言語・非言語コミュニケーションなどの観点から概観します。続いて、(1) 対人関係のコミュニケーション、(2) 日本語における比喩やオノマトペ、(3) 公共の場や異文化間におけるコミュニケーションについて考えます。最後に、それまでの授業を総括し、コミュニケーションの諸相から人間関係について考察します。

2. 授業の到達目標

コミュニケーションの構造や特徴を理解する。

上記を基に、人間関係について、客観的に考察する視点を獲得する。

3. 成績評価の方法および基準

科目修得試験は100点満点中60点以上を合格とします。
最終的な成績評価は、レポート課題(2つ)40%、試験60%で行います。

レポートはLMSで提出を受け付けます。レポートについては、適宜コメントを付けて返却します。

4. 教科書・参考文献

教科書

滝浦真人・大橋理枝 『日本語とコミュニケーション』 放送大学教育振興会(ISBN 978-4595315435)

LMSにサブ・テキストを公開します。

参考文献

戸田山和久 『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』 NHKブックス(ISBN 978-4140911945)

石黒圭 『論文・レポートの基本』 日本実業出版社(ISBN 978-4534049278)

5. 準備学習の内容

学習を開始する前に、サブ・テキストの「はじめに」(p.1 - p.2)を読んでください。この科目の学習の流れが説明されています。

各回の学習は、以下のように進めてください。

(1) メイン・テキスト(『日本語とコミュニケーション』)による学習に入る前に、サブ・テキストに記載された「① 学習のポイントを知ろう(メイン・テキストを読む前に)」の項目に目を通してください。(時間の目安:20分)

(2) メイン・テキストを読み終えたら、サブテキストの「② テキストを深く読む【メイン・テキストを読んだ後に】」の課題に取り組んでください。(時間の目安:80分)

(3) さらに学習を深めるため、サブ・テキストの「③ 実践してみよう【学習したことをもとに調べたり、実際に試したりする】」の課題に取り組んでください。(時間の目安:80分)

6. その他履修上の注意事項

レポート課題の作成にあたっては、テキストや参考文献の引き写しにならないように留意し、問いに即して自分でまとめたり、比較したり、考察したりするなどしてください。また、参考文献からの引用は適切に行ってください。

レポートの書き方について不安がある人は、書籍等で学修することを強くお勧めします。以下にいくつか参考文献を紹介しますが、これ以外にもレポートの書き方に関する良書は多く出版されています。自分に合った書籍を使って学んでください。

戸田山和久(2012)『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス(ISBN 978-4140911945)

石黒圭(2012)『論文・レポートの基本』日本実業出版社(ISBN 978-4534049278)

7. 授業内容

【第1回】 コミュニケーションの構造と本質

【第2回】 日本語のコミュニケーション

【第3回】 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション

【第4回】 あいさつのコミュニケーション

【第5回】 対人関係における言葉ーポライテネスの考え方を通して(1)ー

【第6回】 依頼・勧誘の場面におけるコミュニケーションーポライテネスの考え方を通して(2)ー

- 【第7回】 感謝・謝罪・褒めの場面におけるコミュニケーションーポライトネスの考え方を通して(3)ー
- 【第8回】 対人関係のコミュニケーション
- 【第9回】 敬語のコミュニケーション
- 【第10回】 スピーチのコミュニケーション
- 【第11回】 比喩とコミュニケーション
- 【第12回】 日本語のレトリックとオノマトペ
- 【第13回】 公共の場におけるコミュニケーションー禁止を中心にー
- 【第14回】 異文化間のコミュニケーション
- 【第15回】 コミュニケーションから考える人間関係